

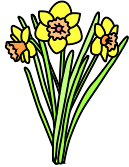


日進北小だより

令和4年2月1日 2月号 第10号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標:心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



4月からコミュニティスクールとなります

校長 平塚 信也

様々な目標や抱負を持って新年を迎えましたが、心配された新型コロナウイルスの第6波が猛威をふるう1月末となってしまいました。感染者の増加や学級閉鎖によって学校も急な変更への対応を余儀なくされています。従前よりお知らせしていますが、残念な思いで中止せざるを得ないものもありますが、感染リスクの高い活動を制限しつつ、感染防止対策に万全を期して学校の教育活動を実施するとの基本方針で臨んでいます。ご理解ご協力をお願いいたします。

さて、令和4年度からすべての市立学校でコミュニティスクール制度が実施されます。コミュニティスクールとは学校運営協議会を設置した学校のことを言います。本校も来年度の導入に向けて学校運営協議会準備委員会を2回開かせていただきました。今回は保護者、地域の皆様に少しご説明をさせていただきます。

大まかに説明しますと現在の学校評議員制度は、校長が必要に応じて学校運営について意見を聞くことに主眼をおいた制度でした。意見もあくまで評議員個人の意見としてお伺いしました。一方、これからの学校運営協議会においては、地域住民や保護者が学校運営に参画し、連携・協働して直接関わる仕組みとなります。「校長の考える学校運営に関する基本的な方針についての承認を得る」ことから始まり、「地域でどのような子どもたちを育てていくのか」、「そのために地域は、保護者は、学校は何を実現していくのか」等を本音で議論して決めていきます。学校運営協議会のこうした意見は、地域住民や保護者等の代表による合議体としての意見として出されることとなります。

第2回の学校運営協議会準備委員会では、子どもに身につけさせたい力・子ども像として「あいさつのできる子」「思いやりのある子」「自律(立)心を持って行動できる子」「意欲的にチャレンジできる子」という意見がまとまりました。「あいさつ」についてはこの2年間重点として取り組んできましたが、「校内ではあいさつができるが、地域ではできない。」というご意見は学校評価のたびに指摘されたところでもありました。「学校のみでできることは限られている。地域や保護者を巻き込んでいかなければ前に進めない。」と私も考えていました。できうる限り多くの地域住民の方々に学校と地域への関心をもってもらい、学校と地域が抱える課題を一緒になって解決していくことが、コミュニティスクールの意義であると考えます。以前受講した研修で講師の先生が全国で集めたコミュニティスクール校長の印象に残った言葉を紹介してくれました。

「信じて語り、教職員や保護者を納得させる。」

「やることは増えたけど、やらなくてよいことはもっと増えた。」

「目に見えて子どもがよくなっているから継続できる。」

「新しいことについてはメリットとデメリットが半々くらいなら敢えて取り入れる。」

「校長として判断に迷う問題が発生したときに委員が背中を押してくれる。」

「わからないところ、見えないところがわかるようになった。」

などでした。是非、本校もこのような言葉が当てはまるコミュニティスクールになり、子どもも大人も、学校も地域も元気になることを目指していきます。一層のご協力をお願いいたします。